

エディトリアル

台東区立台東病院 院長 杉田義博

私たちは日常診療の中でさまざまな道具を用い、患者さんに対して診断・治療を行っている。診察室を見渡すと、なじみの深い聴診器、打腱器、血圧計をはじめ、眼底鏡、耳鏡といった診断機器や、処置に使う治療用の機材などが常備してあることだろう。今回はこれらの診断・治療機器、特に診察室で手の届く範囲にある、身近な道具たちを診療機器と呼び、焦点を当ててみた。

これら診療機器は、私たちの五感と手の能力を飛躍的に拡張してくれる。道具をよく知り、使いこなしてはじめて正確な診断と治療が可能となる。それだけでなく患者さんに与える不快感を減らし、医師に診てもらっているという満足感を増し、患者さんの経済的負担をも軽減することができる。電気を使わないローテクな道具はインフラが途絶えた災害時などには唯一の診断機器となる。

今回は診察室でプライマリ・ケア医が使用する、または使用すべき診療機器を、道具に焦点を当てて専門家ならではのマニアックな視点から解説していただいた。診療機器の歴史と原理、使い方の基本とうまく使うためのコツなどを通して、その道のエキスパートが道具に対して注ぐ愛情とこだわりを感じていただけたらと思う。

最初に、横須賀市立うわまち病院循環器科の岩澤孝昌先生に医療者のシンボルである聴診器と、今やどこにでもある血圧計について歴史と原理、さまざまなバリエーションと最新の機器の紹介をお願いした。聴診器が活躍する2大領域の一つ呼吸器は同病院の松下尚憲先生にご解説いただいた。続いて神経内科の山田滋雄先生にハンマーとペンライトという、極めて原始的だが奥の深い道具について愛情たっぷりに語っていただいた。整形外科のかかりつけ医である上本宗忠先生にはハンマーと近年ポピュラーとなった運動器エコー、さらに治療の領域で診療所でも使いやすい固定具について解説いただいた。伊東市民病院耳鼻咽喉科の松尾博道先生には、基本的な道具である額帯鏡、耳鏡、鼻鏡、咽頭鏡の使い方を、写真を交えて解説していただいた。専門医に送る前に、頑張っておきたい領域であろう。市立奈良病院の園田良英先生には診療所にも設置できる眼科領域の診療機器を解説していただいた。

これらの診療機器をよく知ることによって医療資源に乏しい現場で活躍するプライマリ・ケア医が身近な道具を使いこなしてさまざまな疾患に対処する自信をつけていただければ幸いである。